

近世人物誌

やまと新聞附録第八

某少將の妾
少將の妾某以前日本橋の遊女として
名勝を稱せり其夫人の妾の遊女
ありて以て少將愛しては終つて妻
として任地熊本の宮内伴となり然るに
明治九年十月廿四日神風連の暴擧の爲に少
將は重傷を負ひ遂に逝去す此時妾は
東京の母許に在りて之を聞きて
雷を打たれり當時の諸新聞に
其妾の自決の事あり或は時局の
急を奉職の如何某此妾を懸想し思ひ
小絶れ一日面會のつゝ戀情のやうに
を吐露せしむるに妾は故敵の恩偶
業を朝の事ありと殿並にれて土
を踏むる小御身と怪
妻の石を善奴の果を
多入りの無念の御身と輕き
あり等一官吏なりと云ふ此場は是限
として人にも言ひて身も此後を懐み
玉ももとのものなり某の慙愧絶
穴腹断念と云ふとわうけし
ありの身を斯くを思ひ
妾は母をけりて肌
締結を服て予たり其年
役を討死せし肌を妻の
たるは締結を着居たり



發行所 東京 京橋區 也まど新聞社
尾張町貳百壹號
電話 二四〇二

某
史記

某少將の妾8号 文庫10-8617-8

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

